

## 第2回 栄東地区 学校配置検討委員会

日 時 令和5年(2023年)6月6日(火)16時～  
場 所 栄新和町内会館 2階「大ホール」

### 次 第

#### 1 開会

#### 2 事務局挨拶

#### 3 新委員紹介

#### 4 報告

- (1) 第1回検討委員会の振り返り・・・資料1
- (2) 地域や保護者から寄せられた意見・・・資料2
- (3) コミュニティ・スクールについて・・・参考資料

#### 5 協議事項

- (1) 小規模化する小学校で生じる課題の整理について・・・資料3
- (2) 栄緑小学校区から栄東小学校までの通学距離と通学安全について・・・資料4

#### 6 次回の学校配置検討委員会の開催日程について

#### 7 閉会

#### 配付資料

- ▶次第
- ▶座席表
- ▶委員名簿
- ▶資料1 栄東地区 学校配置検討委員会ニュース第1号
- ▶資料2 地域や保護者から寄せられた意見
- ▶資料3 小規模校で生じる課題
- ▶資料4 栄緑小学校区から栄東小学校までの通学距離と通学安全
- ▶参考資料 コミュニティ・スクールに関する参考資料  
(札幌らしいコミュニティ・スクールの在り方検討会議 資料4)

## 第1号

## 栄東地区 学校配置検討委員会ニュース

発行日  
2023年4月27日

発行元：栄東地区学校配置検討委員会事務局  
(札幌市教育委員会生涯学習部学校施設課学校配置マネジメント担当)

札幌市では、少子化の影響により、児童生徒数の減少とともに1校あたりの学級数が減少する「学校の小規模化」が進んでいます。

「学校配置検討委員会」とは、地域・保護者・学校関係者の代表者で構成され、学校の小規模化により生じる課題を整理し、課題解決のための方策について、行政と連携を図りながら検討していく場です。

## 1. 「学校配置検討委員会」設立の背景と目的

栄東小学校は、1975年(昭和50年)に開校し、1982年(昭和57年)に児童数が1,165人(30学級)となりピークを迎えました。

増加する児童数に対応するために栄東小学校と栄北小学校の通学区域を再編し、1983年(昭和58年)に栄緑小学校を開校、栄緑小学校は1985年(昭和60年)に児童数620人(18学級)となりピークを迎えました。

栄東小学校と栄緑小学校は、ピークを迎えて以降、少子化の影響により、児童数が減少傾向にあり「学校の小規模化」が進んでいます。

こうした状況を踏まえ、栄東地区に「学校配置検討委員会」を設置し、現在、そして未来を担う子どもたちにより良い教育環境を提供するための検討を行うことにしました。

検討委員会の開催状況については、「学校配置検討委員会ニュース」により皆様にお知らせしますので、ぜひ多くのご意見をお寄せください。

## 2. 栄東小学校と栄緑小学校の概要

(2022年5月1日現在)

学校名	栄東小学校	栄緑小学校
所在地	東区北46条東13丁目1-1	東区北51条東10丁目1-1
児童数/学級数	479人/16学級	253人/10学級
特別支援学級	知的3人/1学級 自閉・情緒5人/1学級 病虚弱1人/1学級	知的2人/1学級 自閉・情緒1人/1学級
開校年次	1975年(昭和50年)	1983年(昭和58年)
教職員数	30人	21人
校舎建築年・築年数	1974年(昭和49年)・築48年	1982年(昭和57年)・築40年
校地面積	14,125 m <sup>2</sup>	17,925 m <sup>2</sup>

※特別支援学級の「自閉・情緒」は「自閉症・情緒障がい」、「知的」は「知的障がい」、「病虚弱」は「病弱・身体虚弱」の略

### 3. 「学校規模適正化」について

札幌市教育委員会では、学校が小規模化することで生じる課題に対応するために、保護者、有識者、公募委員などで構成される「札幌市立小中学校適正配置検討懇談会」の答申に基づき、2007年12月に「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する基本方針」を策定し、対象となる地区や学校を予め選定の上、学校規模適正化の取組を進めてきました。

その後、札幌市の児童生徒数はさらに減少し、今後も増加が見込まれる小規模校に適応できるよう「札幌市立小中学校適正配置審議会」からの答申を踏まえて、2018年4月に基本方針を見直しました。新たな基本方針では、全ての小規模校を対象に学校規模適正化の取組を進めるとともに、札幌市の考え方である「公共施設の長寿命化、複合化による地域コミュニティの再構築」も踏まえ、施設面からも学校規模適正化による教育効果の発揮を図ることとしました。

#### (1) 小規模校のメリットと課題

##### 小規模校のメリット

- ▶一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を把握しやすい。
- ▶意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- ▶異年齢の学習活動を組みやすく、校外学習などを機動的に行いやすい。
- ▶グラウンドや体育館、特別教室などが余裕をもって使える。 など

##### 小規模校の課題

- ▶クラス替えが困難となり、人間関係が固定化し集団活動の機会が限られる。
- ▶運動会や学習発表会などの学校行事において、種目や演目が限られる。
- ▶様々な価値観への出会い、社会性や協調性、コミュニケーション能力を伸ばす機会が限られる。
- ▶学校行事において、児童生徒の安全、安心の確保や円滑な運営に必要な体制を整備しにくい。 など

#### (2) 適正な学校規模

##### 小学校

18～24 学級(1学年3～4学級)

※少なくとも12学級以上(1学年2学級以上)



##### 中学校

12～18 学級(1学年4～6学級)

※少なくとも6学級以上(1学年2学級以上)



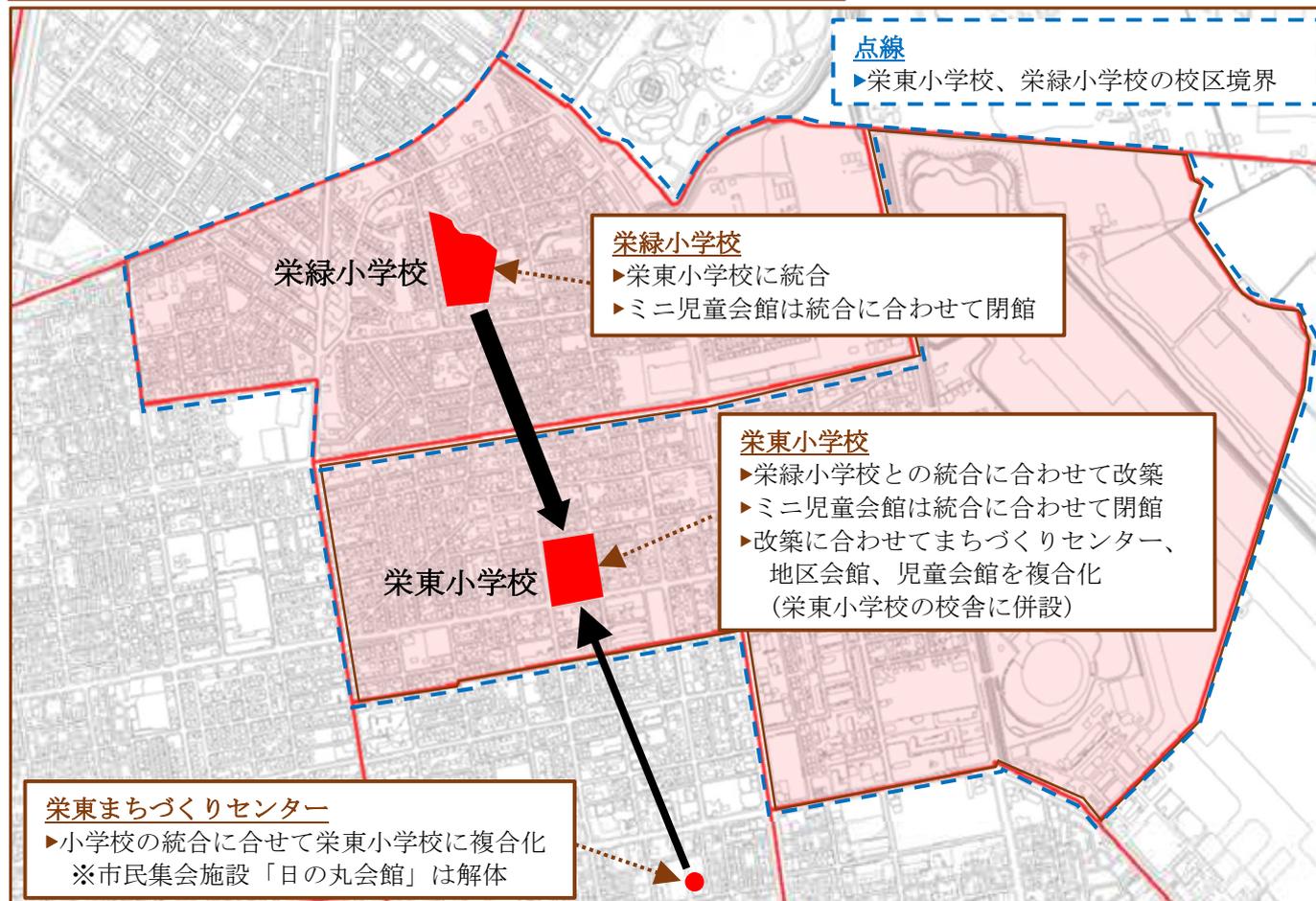
小学校は12学級未満、中学校は6学級未満の学校のことを「小規模校」としています。

## 4. 栄東地区における取組案

札幌市と教育委員会は、「学校配置検討委員会」（以下、「検討委員会」）で協議を進めるためのたたき台となる「取組案」を作成し、第1回検討委員会で提示しました。

「取組案」は1つの案であり決定事項ではありません

### 栄東小学校と栄緑小学校を中心とした取組案の図



### (1) 小学校の統合

▶小規模化により生じる課題を解消するために、栄緑小学校を栄東小学校に統合します。（栄東小学校の敷地を使用する想定）

参考：児童数学級数の推計(2022年5月1日現在)

(単位・・・児童数：人 / 学級数：学級)

	2022 (R4)		2023 (R5)		2024 (R6)		2025 (R7)		2026 (R8)		2027 (R9)		2028 (R10)	
	児童数	学級数	児童数	学級数										
栄東小	479	16	462	15	439	14	443	15	430	14	426	14	403	13
栄緑小	253	10	248	10	253	11	261	12	262	12	245	11	225	10

## (2) 学校施設の整備

---

- ▶統合に合わせて老朽化している栄東小学校を改築します。

## (3) 公共施設の複合化

---

- ▶栄東小学校の改築に合わせて、小学校に地区会館機能を含めた「栄東まちづくりセンター」と「児童会館」を複合化(小学校に併設)します。

まちづくりセンター + 地区会館 = 400 m<sup>2</sup>

児童会館 300 m<sup>2</sup> + 多目的ホール 150 m<sup>2</sup> (多目的ホールは一般利用可)

※複合化に伴い栄東小学校と栄緑小学校のミニ児童会館は閉館

## (4) 栄緑小学校跡地の活用

---

- ▶公共利用の有無を札幌市で検討します。
- ▶公共利用が見込める場合は、市有施設として再活用します。
- ▶公共利用が見込めない場合は、地域ニーズを踏まえた条件付きで民間事業者への売却を検討します。

## (5) 栄東まちづくりセンター跡地の活用

---

- ▶公共利用の有無を札幌市で検討します。
- ▶公共利用が見込める場合は、市有施設として再活用します。
- ▶公共利用が見込めない場合は、建物の解体後に土地の売却を検討します。

- ・市民集会施設「日の丸会館」の建物も解体します。
- ・解体費用は、地域負担となります。  
※札幌市には市民集会施設の解体に係る一部の費用を補助する制度があります(補助要件有)。
- ・建物解体後の土地は、栄東まちづくりセンターの土地と併せて売却を検討します。

## 5. 第1回検討委員会について

1回目の検討委員会では、代表委員の選出や検討委員会の運営方法の決定、事務局から「取組案」の説明、「取組案」に関する意見交換、委員と市・教育委員会職員とで質疑応答を行いました。

### (1) 開催概要

- ▶ 会議名 第1回 栄東地区 学校配置検討委員会
- ▶ 開催日時 2023年(令和5年)2月21日火曜日 16時00分～17時30分
- ▶ 開催場所 栄新和町内会館(東区北48条東10丁目3番8号)
- ▶ 構成委員 1. 栄東連合町内会、栄西連合町内会、太平百合が原連合町内会、栄東小学校PTA、栄緑小学校PTAから推薦された者  
2. 栄東小学校と栄緑小学校の校長

※委員名簿・・・8ページ参照

【札幌市・教育委員会からの参加】

危機管理局、まちづくり政策局、財政局、市民文化局、子ども未来局、教育委員会の関係課職員

### (2) 検討委員会の運営方法の決定

- ▶ 代表委員には、栄東連合町内会会長の菊地裕嗣氏を選出しました。
- ▶ 検討委員会の「公開・非公開」について協議し、自由で活発な議論を行うために「非公開」としました。
- ▶ 検討委員会の開催状況については、「検討委員会ニュース」を作成し、学校から保護者世帯への配付、栄東小学校と栄緑小学校の校区内全世帯にポスティング、教育委員会ホームページに掲載することで、地域の皆様に周知することとしました。
- ▶ 保護者や地域の皆様からのご意見やご要望については、「検討委員会ニュース」により募集し、お寄せいただいたご意見等については、事務局(教育委員会)で受け付けて、次回検討委員会で報告することとしました。

### (3) 「取組案」に対する意見・質疑応答の概要

- ▶ 委員からの意見や質問、札幌市・教育委員会職員からの回答などについて、以下、概要を掲載しています。

※類似の発言内容をまとめるなど文言を整理して掲載しています。

※「○」・・・委員からの意見、質問等

※「⇒」・・・代表委員、札幌市・教育委員会職員の説明、回答

## ～学校規模適正化の取組についての意見など～

- 栄西小学校には、まちづくりセンター・地区会館と児童会館が併設（複合化）されている。地域コミュニティの中心の場であった栄 42 条会館を地域で維持管理していくことが難しくなってきた中、栄西小学校に地区会館が複合化された。地区会館は、町内会役員などの地域住民で構成される運営委員会により管理、運営し、とても使いやすい施設である。ただ、栄 42 条会館から数百メートル離れた場所にあるため、栄 42 条会館に近い住民、特に高齢者にとっては、場所が遠くなり、地区会館に足が向かなくなっている。
- 子どもたちのことを想えば統合はやむを得ないと思う。新しい校舎だと、耐震化がしっかりしており、教室などの学習環境も良くなる。
- 栄緑小学校が栄東小学校に統合されるとなると、栄緑小学校校区の子どもたちの通学距離が長くなる。栄緑小学校校区の端に住んでいる児童は、栄東小学校までどれくらいの距離なのか、また、場合によってはスクールバスの導入などの支援は考えてもらえるのか。統合した場合の通学距離が確認できる資料が欲しい。
  - ⇒(教育委員会学校配置マネジメント担当課)
    - ・栄緑小学校校区の中で、栄東小学校から最も遠い地点までの距離が約 1.8km です。
    - ・札幌市では、通学方法を原則、徒歩としています。また、児童の徒歩による通学距離の範囲は 2 km 以内としており、栄緑小学校を栄東小学校に統合する場合でも、全ての児童が 2 km 以内からの通学となるため、スクールバスなどの導入は難しいと考えています。資料については、次回検討委員会でお示しします。
- 通学距離が長くなる事で、冬の除雪、排雪のことが心配である。距離が長くなる分、子どもたちの負担を減らし、安全に通学できるよう除雪、排雪にも力を入れて欲しい。
- (委員自身の経験から)学校が新しくなることでPTA活動も活発になり、子どもたちにも良い影響があった。
- 2018 年(平成 30 年)の北海道胆振東部地震の際、町内会総出で、1 週間毎日、子どもたちの登校時間、下校時間に、通学路の見守りを行った。子どもたちの安全を守ることは、学校だけではなく、地域の力も必要になる。
- 栄緑小学校が栄東小学校に統合されるとなると寂しく感じる。栄緑小学校の近隣住民の心情を十分に理解した方策になるよう、札幌市、教育委員会にはお願いしたい。

### ～学校跡地の活用についての意見など～

- 地域では高齢化が進んでいるため、地域コミュニティの場となる地区会館や町内会館は、どこに住んでいても近い距離にある方が良い。栄緑小学校の跡地については、地域住民が利用できるような施設や災害時等の避難施設としての活用が望ましい。
- 栄緑小学校が閉校すると、地域のコミュニティの場が不足することになるので、跡地をただ民間事業者に売却するのではなく、札幌市として責任をもって、栄緑小学校の校区内の住民に有意義となる跡地の活用をお願いしたい。

### ～その他の意見など～

- 児童数の減少に伴い今の小学校には空き教室があるはず。空き教室を地域の会議などで利用できるとありがたい。

## (4) 次回の検討委員会について

- ▶ 会議名 第2回 栄東地区 学校配置検討委員会
- ▶ 開催日時 2023年(令和5年)6月6日火曜日 16時00分～17時30分
- ▶ 開催場所 栄新和町内会館(東区北48条東10丁目3番8号)

### 次回(第2回)検討委員会の議題(予定)

- ▶ 第1回検討委員会の振り返り
- ▶ 地域や保護者の皆様から寄せられたご意見等の紹介
- ▶ 小規模化する小学校で生じる課題の整理と解決するための方法
- ▶ 栄緑小学校校区から栄東小学校までの通学距離と通学安全
- ▶ 学校跡地の活用に関する札幌市の考え方

ご意見、ご質問は、下記事務局までお寄せください。

## 栄東地区 学校配置検討委員会事務局

- ▶札幌市教育委員会生涯学習部学校施設課（学校配置マネジメント担当）
- ▶電話：011-211-3836 FAX：011-211-3837
- ▶Mail：[gakkohaichi@city.sapporo.jp](mailto:gakkohaichi@city.sapporo.jp)

検討委員会の開催概要は札幌市教育委員会のホームページにも掲載しています。

<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/sakaehigashi.html>

学校規模適正化 栄東

検索



さっぽろ市  
02-S01-23-588  
R5-2-436  
SAPPORO

※「学校規模適正化担当」は、2023年(令和5年)4月より、「学校配置マネジメント担当」に名称変更しました。

## 資料2 地域や保護者等から寄せられた意見

日時・方法等	内容	分類
<p>05.05.11 年代不明 メール</p>	<p>統廃合に関する意見</p> <p>日頃の教育活動に対するご尽力に感謝と敬意を表します。          栄東地区『学校配置検討委員会ニュース』を拝見しました。          僭越ではございますが、意見を述べさせていただきたいと思います。          「少子化」とはいいますが、札幌は大都市であり、地方のような過疎化は進んではないと思います。          また、政府による「こども子育て支援」により、今後、諸先進国のように子供を増やす（育てる）政府施策が開始されます。          私は、約30年前『栄緑小学校』という小学校が近くにあり、教育環境を考えてこの地に居住しました。子供は2人おりますが、現在は社会人となり独立しております。当時の栄緑小学校の教職員の皆様には大変お世話になりました。          結論を申し上げますと、栄東小学校への統廃合に反対です。以下その理由を申し上げます。</p> <p>【通学路、通学距離の問題】</p> <p>最遠で1.8キロある通学路を小学生（特に低学年）が徒歩通学するのは【極めて危険】だからです。現在、私の住んでいる北50条にはたくさんの子供達が栄緑小に通学しています。統廃合が実施されると栄東小学校までの往復、通学時間帯には北49通り、北45条通りは多くの交通量があり、この道路を子供たちに横断させるのは「危険極まりない」と思います。特に積雪・凍結のある冬、また、夏季においては信号無視、速度超過など交通規則を遵守しないドライバーが散見されます。（私は、数年前の夏の朝（通勤時間帯でしたが）、北49通りを青信号歩行横断中に、信号を無視して暴走する車に轢かれそうになった経験があり、怒りがこみ上げました！）</p> <p>町内会やPTAボランティアによる積極的な【見守り】『横断歩道支援（緑のおじさん、おばさん方）』も実施されていますが、その多大なるご尽力にもかかわらず「事故は減少している」とは言えない状況です。交通事故による子供の損失は、絶対に避けなければならない重大社会問題です。</p> <p>学校は、地域にとっても素晴らしい伝統が受け継がれている「生き物」のような存在であり、一時的な学童減少によって「輕易に統廃合するものではない」と思います。市の財源（コスト、費用対効果）も大切ですが、小さなサイズの小学校ならではの教育メリットも大いにあると考えられます。</p> <p>子供は「地域の宝」「国の宝」として、地域一体となって全ての安全を確保しながら、育てて行くことが必要だと思えます。</p>	

日時・方法等	内容	分類
05.05.12 年代不明 メール	<p>栄東小栄緑小統合についての意見です</p> <p>先日、冊子を拝見いたしました。</p> <p>栄東小に通うとなると、荷物も重いなか登下校の距離が長くなります。朝も早く出なければならず帰りは遅くなり、放課後の遊ぶ時間も短くなってしまいます。</p> <p>この辺に学校が無いとなると、この先若い世代の方が住みにくい地域になるとも思います。</p> <p>少人数だから統合するのではなく、少人数だからこそ出来る良い教育環境を無くしてはならないと思います。</p> <p>統合は反対です。</p>	
05.05.17 年代不明 メール	<p>栄東地区学校配置計画について</p> <p>いつもお世話になっております。</p> <p>栄緑小学校に通う児童の保護者です。</p> <p>栄東地区学校配置計画についての資料を学校からいただき、意見を述べさせていただきたいと思い、このメールをお送りいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <p>・通学エリアについて</p> <p>栄東小学校への統合を行う場合、一部の児童はその手前にある栄北小学校の近くを通ります。</p> <p>また、区を跨ぎますが太平南小学校の方が遥かに近いエリアもあります。</p> <p>現状、百合が原地区から栄緑小学校に通う児童は区を跨いで通学しており、太平南小学校または栄北小学校に通うことに障害があるとは思えません。</p> <p>在校生が通う学校が分かれることで友達と離れることは避けていただきたいという思いはありますが、新入生については通う学校を選択できるようにしていただければと思います。</p> </li> <li> <p>・通学路について</p> <p>烈々布通り（北50条東8丁目交差点から百合が原方面に抜ける道）は歩道も狭く、交通量も多いため児童の通学には危険と考えます。</p> <p>JR側の歩道は冬季は積雪のため歩行不能の状態となり、除雪された雪山の上を歩かざるを得ない状況になっています。</p> <p>学校統廃合に先立って歩道の整備または百合が原2丁目交差点からの時間指定による直進禁止の交通規制等の検討をしていただければと思います。</p> </li> <li> <p>・栄緑小学校跡地について</p> <p>廃校後の栄緑小学校について、最低でも10年程度は札幌市が主体となってコミュニティーセンターなどの形で残していただければと思います。</p> <p>地域住民はもとより、栄緑小学校を卒業した児童たちにとって思い出のある学舎であり、卒業後に児童が集まる場ともなり得る場所です。廃校・取り壊し等で失われることは避けていただきたいと思います。</p> <p>以上、よろしく願いいたします。</p> </li> </ul>	

日時・方法等	内容	分類
05.05.27 年代不明 メール	<p>① 限られた人数で結論ありきの形だけの委員会そのものに反対</p> <p>② 校区に当たる住民全員に意見を聞くのが民主主義</p> <p>③ 7年ほど前の、雪道の下校途中に女の子が誘拐されて男性宅に連れ込まれた事件を覚えているのか？ →校区が広がり子どもの徒歩時間が長くなると事件に巻き込まれやすくなる。不審者は後を付けやすくなることを理解しているのか？ 校区が狭いことにより、住民のお互いが道端の登下校の子ども達を見守り安くなり結果治安維持ができています。現在安心して子どもが通えているのは地域住民の協力の元成り立っていることを理解していないから、大人の都合、経済都合だけで統合を強引にすすめているとしか言いようがない。</p> <p>④ 百合が原地区の町内会では反対が多数を占めている事を知って欲しい。</p>	
05.05.29 年代不明 メール	<p>栄東地区 学校配置検討委員会ニュースについて意見です。</p> <p>栄緑小学校をなくさないでほしい。 統合になるにしても、篠路通から西エリアは栄東小学校ではなく栄北小学校の区域に変更してほしい。区切り方がおかしいと思う。 栄北小学校の方が半分の距離なので栄東小学校は遠すぎる、危ないので絶対反対です。 よろしくをお願いします。</p>	
05.06.03 年代不明 メール	<p>栄東地区における取り組み案の変更依頼</p> <p>検討委員会のみなさま お疲れ様です。 日頃より子供達のために時間を使っただきありがとうございます。さっそくですが、小学校入学前の子供がいるものです。 栄緑小もしくは栄北小が近いので、それを踏まえて引っ越してきました。 ところが！今回の案では栄東小になります。2km以内であれば問題ないという決まりがあるということですが、実際に毎日通うとなるとかなりヘビーです。（私は小学校の時2kmの距離を通ったことがありますが、なぜ自転車がだめなのか？と常に思っていました。）夏は朝から汗臭くなり、冬は危ない冬の道を凍えながら歩きました。バスもなく、大人って何も分かってないんだなあと思っていました。勉学の妨げになったことはまちがいないです。 小学校が東小しかないのならわかるのですが、北小学校があるのにわざわざ東小に属する意味がわかりません。地図で見ても不自然です。 以上よろしくをお願いします。</p>	

※ 個人情報を含むご意見につきましては一部修正しておりますが、学校配置検討委員会当日の資料には掲載しております。

### 資料3 小規模校の課題について

#### 小規模な学校のメリット

- 一人一人の学習状況や、学習内容の定着状況を把握しやすい。
- 意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- 異年齢の学習活動を組みやすく、校外学習などを機動的に行いやすい。
- グラウンドや体育館、特別教室などが余裕をもって使える。

など

#### 小規模な学校の課題

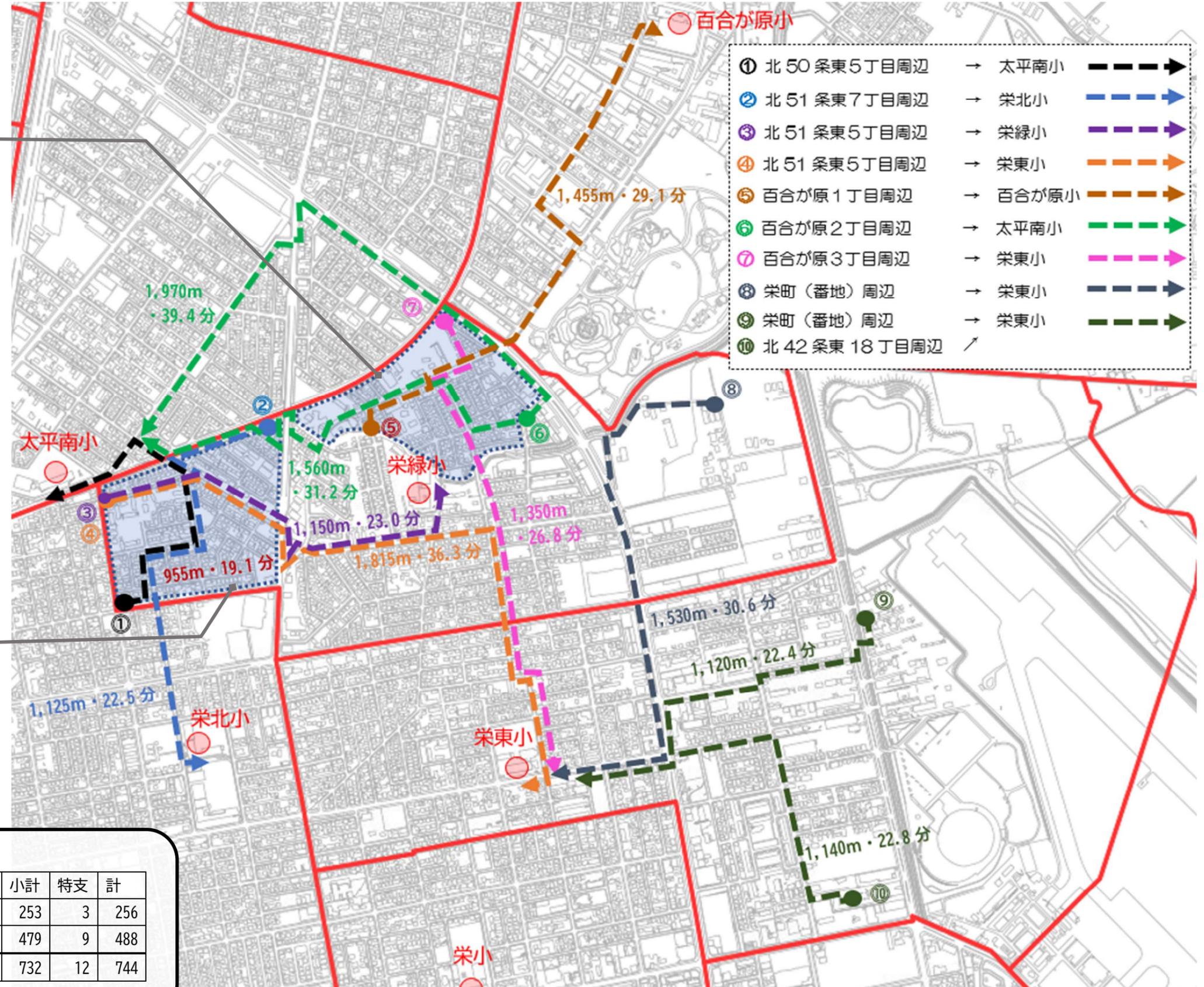
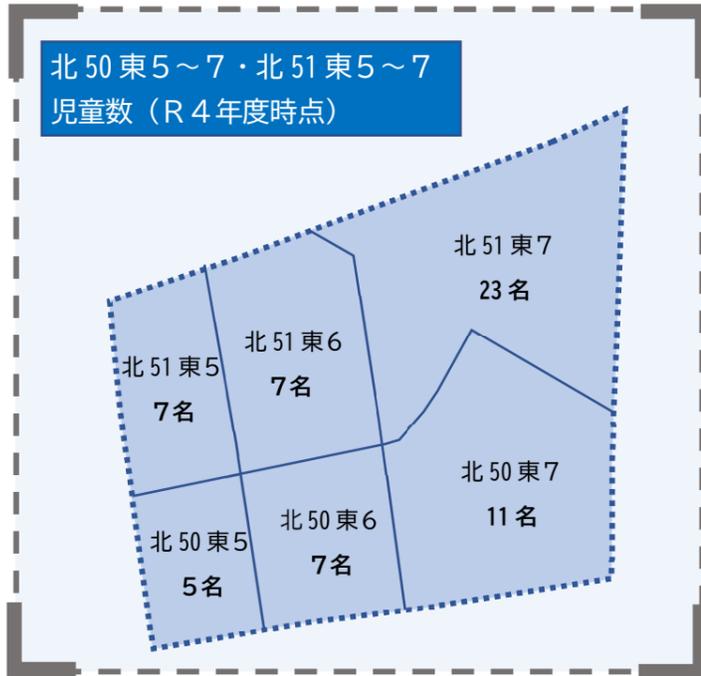
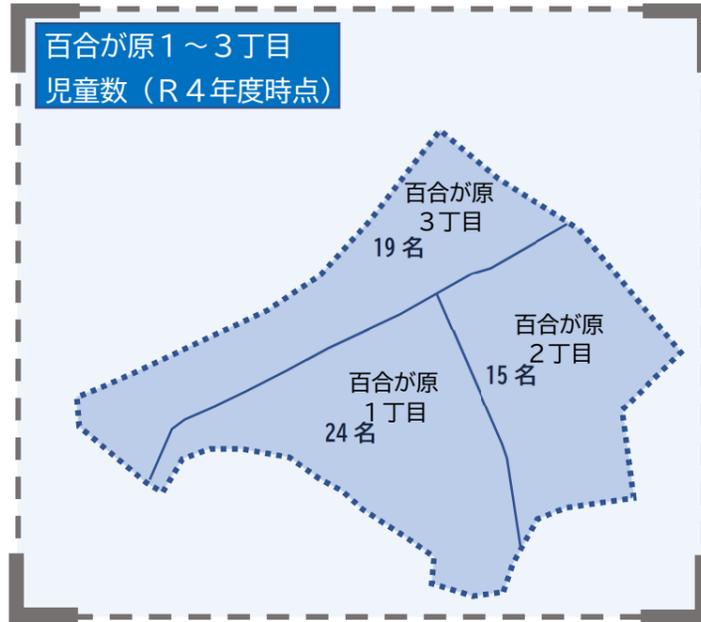
- クラス替えが困難となり、人間関係が固定化し、集団活動の機会が限定される。
- 様々な価値観への出会い、社会性や協調性、コミュニケーション能力を伸ばす機会が限られる。
- 学校行事において、児童生徒の安全・安心の確保や円滑な運営に必要な体制を整備しにくい。

など

#### 学校運営面における課題 ～『札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する基本方針』より～

- 教員の業務内容は、学校規模によって大きく変わらないため、学校規模が小さくなることで、相対的に教員一人ひとりの業務負担が増大します。
- 小学校においては同学年の担任同士による相談や授業研究の機会が限られ、中学校においては専門性を有した教科担任を十分に配置できないことがあります。
- 運動会や修学旅行などの行事において、児童生徒の安全・安心の確保や円滑な運営に必要な体制を整備しにくくなります。
- P T A活動において、保護者数が少ないため、行事運営や組織活動における担い手が不足しやすくなります。

※ 本資料は、小規模校の課題について検討いただくことを目的に作成しています。  
(小規模校のメリットとして考えられること、また、小規模校のメリットに関する意見もありますが、この資料には記載していません。)



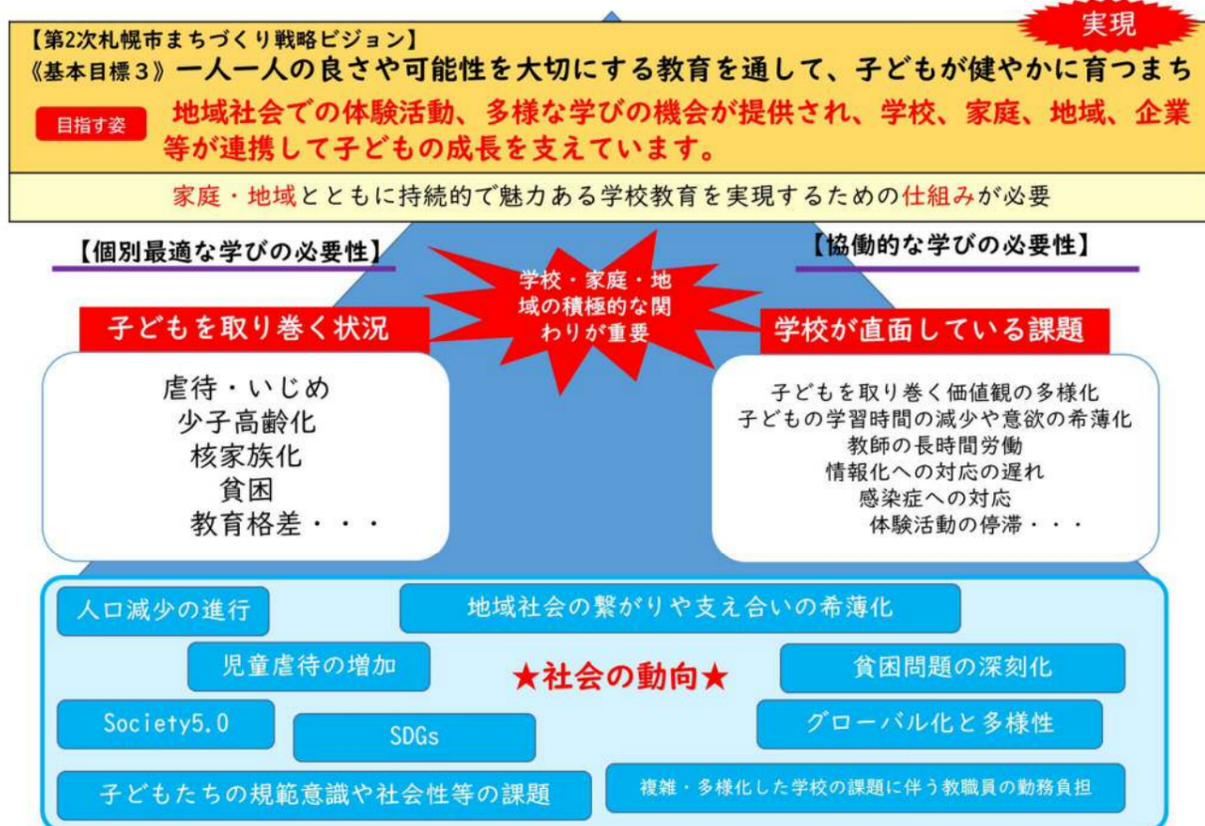
※R4年度時点 児童数 (全体)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	特支	計
栄緑小	50	47	39	29	36	52	253	3	256
栄東小	89	67	78	70	89	86	479	9	488
児童数 計	139	114	117	99	125	138	732	12	744

## 現時点における札幌市教育委員会の基本的な考え及び検討委員会の進め方について

### 1 札幌市教育委員会が考えるコミュニティ・スクールの必要性

社会構造の変化に伴い、子ども一人ひとりの状況に応じた最適な教育環境を実現するためには、学校だけでなく、家庭・地域等が相互に連携協力することがこれまで以上に重要であるとの考えから、平成16年に地教行法改正によりコミュニティ・スクールが制度化され、平成29年度からは設置について教育委員会の努力義務となっている。



⇒ 学校は、絶えず変化する社会の中で、子どもの多様性を尊重し、可能性を最大限引き出す学びの提供が求められており、多様な方々と連携協働した学びの機会創出が必要である。また、地域を愛し、ともに生きる人材を育てる意味でも、家庭・地域と育てたい生徒像等を共有し、社会とともに子どもを育てる仕組みが必要。

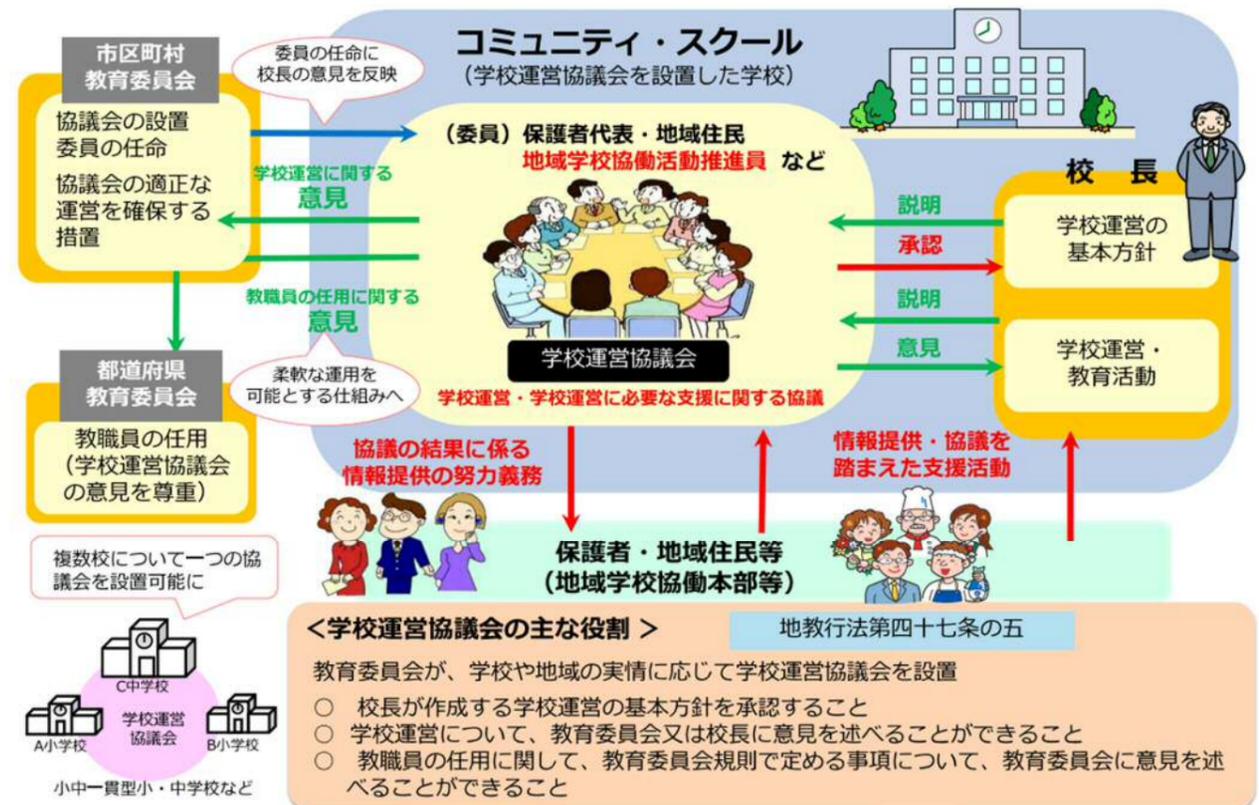
### 2 札幌市教育委員会が目指すコミュニティ・スクールの基本的な考え方

#### (1) 基本的な考え方

- ① 小中一貫した教育のパートナー校単位で、育てたい子ども像を地域、保護者も交えて整理できる場とし、子ども育成に関係する人たちが育成の方向性を共有する。
- ② 学校を核として地域の方々の参画や地域の特色を生かした事業等を展開することで、地域全体で、将来を担う子どもたちを育成する。
- ③ 子どもの意見についても学校運営に反映させる。
- ④ 将来的に学校を核としたまちづくりの充実を目指す。

※ 地域・保護者・学校で構成される既存の会議との関係についても検討が必要。

#### (2) 参考（国が示しているコミュニティ・スクール概念図）



### 3 検討委員会の進め方（案）

	日時等	検討内容等
第1回	本日	○ 検討委員会の進め方について
視察	令和5年1～2月	○ 視察予定先 ・ さいたま市（将来的なまちづくりを意識したCS） ・ 三鷹市（小中一貫教育を基盤としたCS） ・ 岡山市（幼稚園まで含めた中学校区を基盤としたCS） ・ 和歌山県（高校の特色を生かしたCS） ・ 小樽市立朝里中学校（出口委員が参加している協議会）
第2回	令和5年3月頃	○ 視察結果の共有
第3回 第4回	令和5年4～5月頃	○ 札幌らしいコミュニティ・スクールの在り方についての協議 EX. CSの役割、小中一貫した教育との関係、地域学校協働活動推進員の担うべき役割、既存の会議との関係、継続的な教育委員会のあるべき支援、児童生徒の意見を学校運営に生かす方法
第5回	令和5年6月	○ まとめ

※ 上記については、あくまでも現時点での想定です。